

ぜったいメガネは  
はずさない!

 ぶちばら文庫  
creative

玉城琴也

イラストレーション  
八尋ぼち

「あります……女子高生のほとんどは、一度くらい痴漢にあったことあると思いますよ」  
おとなしそうで極上スタイルの朱鷺乃は、痴漢からすれば絶好のターゲットだろう。

「偶然を装ってるんでしょうけど……明らかにお尻を撫でられたり……肘でおっぱいを突かれたり……他にも、その、いろいろ……」

「それで感じちゃったりするの？」

「A Vの見すぎじゃないですか？ 見知らぬ誰かに触られるなんて不快だけです」

「朱鷺乃にだけは言われたくないセリフだ……でも、そっか……」

朱鷺乃の体が俺以外の誰かに、俺よりも先に触られたことがあるっていうのは、なんか、すげえムカつく。痴漢、ダメ絶対。

スカートの中に手を入れ、触り心地のいい綿の下着に包み込まれたお尻を手の平全体でもって掴む。

「朱鷺乃は俺だけのものだからな……」

耳元で囁き、耳たぶにはむっと囁み付く。

「ふぁ……は、はい、私は幸太郎くん専用の肉奴隷です……」

「……そこまでは言っていないだけだ」

「幸太郎くんだったら、私のどこでも触っていいですよ……お尻だって、おっぱいだって、もちろんおまんこだって……触って……触って……ほしいんです……」

朱鷺乃は自らの指で制服をブラごと捲り上げた。

「ちょ、ま、待て……そこまですたら、言い訳できないだろ……」

「大丈夫……大丈夫、ですからあ……!」

だから、その大丈夫の根拠はどこにあるんだよ!

とはいえ、据え膳喰わぬは何とやら。目の前にそんな白い肌を差し出されてしまつては、押さえられるはずがない。

またも電車が揺れ、後ろにいる人に押された。俺が押されれば、前の朱鷺乃も押されるドミノ倒し。半裸体が正面のドアに密着する。

「ひゃっ!」

冷たいガラスに地肌が触れた朱鷺乃は、その温度差に思わず悲鳴をあげた。

窓ガラスとおっぱいの間に指を割り込ませ、背後からおっぱいを鷺つかみにし、乳首を指先で転がす。温度差に反応したのか、それとも、元からこうだったのか、彼女の乳首はコリコリに勃起していた。

「通学中の電車でこんなに硬くしちゃって、朱鷺乃はいけない子だね」

「は、はふぁ……あ、ああ……幸太郎くんにされたら……気持ちよくなっちゃうのは当たり前じゃないですか……幸太郎くんだって、こんなにしてる、くせに……」

お尻をくねくねと揺らし、俺のズボンの内側に潜む勃起を刺激する。

「カチカチにしちゃって……挿れたいんじゃないですか？ 挿れたいですよ……？」  
 「そりゃ挿れたいけどさ……もうじき駅についてちゃうし……」

スイッチの入ってる俺のペニスには大量の血液が巡り、びくびくと震えている。

今の位置から学校の最寄り駅・萩並まであと一駅。時間にしたら三分もかからない。

野外での興奮と緊張がない交ぜになって、いつもよりも早くイケそうではあるけど、果たして三分でイケるだろうか？

イクことができずに生殺しにされるのも辛い。それなりの降車率を誇る萩並駅で一気人が降りた時に、合体しているところを見られてしまっただけは大問題だ。

「学校に着くまで我慢しようぜ……？ 学校に着いたら……おっ？」

窓の外を流れる景色の速度が徐々に緩やかになる。

電車は徐々にスピードを落とし、やがて停止した。

『なんだなんだ？』と、急いでいるサラリーマンや学生たちからは、ささやかなブーイングが漏れ、

『線路内にお客様が立ち入りました関係で、しばらく停車いたします。お急ぎのところ、大変申し訳ありませんが、今しばらくお待ちください』

続いて聞こえてきた車内アナウンスで、ブーイングはより一層強まった。

歯止めが外れかかっていった俺たちには願ってもないチャンスであり、歯止めをぶち壊す

トドメの一撃だった。

振り返った朱鷺乃の、メガネの奥の潤んだ瞳が俺を見つめてくる。

口はぱくぱくと何かを言いたそうに開くだけ。

物言わずとも言わんとしてることは理解できた。

ハメてほしいんだよな、わかってるよ！

蒸れたズボンの中からペニスを取り出した俺は、朱鷺乃のパンツをずらし、彼女との距離をゼロにまで詰めた。

「~~~~ッッ！」

連結完了！

既に膣口から子宮口に至るまでの全ての道のりは、どろどろの愛液で満たされていた。

「ふうーッ……ふうーッ、ふうーッ！」

朱鷺乃は両手で口を塞ぎ、膝を震わせ、いきなり奥深くまで挿入された快感を堪える。

彼女の体から、発情して蒸れた雌の匂いが漂い、おそらく、辺りにまで広がってしまったら、これだけ人がいるんだ、誰の匂いかなんてきつとわかりやしない。

「すっげえぐちゃぐちゃじゃないか……！」

「だ、だから、ちゃんと言ったじゃないですかあ……」

朱鷺乃を背後からしっかと抱きしめるが、人の多い電車では狭くて、大きくは突き動か

せない。腰を少しだけくねらし、子宮口をぐりぐりと刺激する。

「ひっ、ひうん……!」

それだけでも朱鷺乃には充分に効果的らしい。

朱鷺乃が快感に打ち震えれば、膣壁が蠢き、愛液が滴り、俺のペニスにも快感が送られて、俺のペニスが刺激されれば、朱鷺乃のより深くを抉れる。

「はあ……はああ……ホントに入っ、ひやつてるう……電車でセックス、しちやつてるんれすね……」

「信じられないけど……マジなんだよな……」

快感は嘘をつかない。電車が止まり、車内の熱気と不快指数が増していくが、俺たちの熱気と快感指数は昇る一方だ。

入っているだけじゃ我慢できなくなる。

動きたい。もっと激しくめちやくちやに、朱鷺乃の膣内をかき乱したい。

ガラスに接した朱鷺乃のおっぱいを揉み、乳首を転がしながら、昂りたくても昂りきれないもどかしさに耐える。

対向車線の線路の電車とすれ違う。一瞬の出来事だったが、果たして向こう側の電車に乗っていた人は朱鷺乃の痴態に気づいただろうか。あまりにも一瞬の信じられない出来事で、目の錯覚か妄想の産物とでも思っただろうか。

「はっ、はああ……」

電車のすれ違った風圧で扉がガタガタと揺れ、扉に接している朱鷺乃は気持ちよさそうに身震いをする。

朱鷺乃の正面のガラス窓は、彼女の熱い吐息で真っ白に曇り、結露していた。

結露の雫がガラスを伝って垂れ、押し付けられて歪んだおっぱいを濡らす。

その雫には吐息の結露だけではなく、彼女の唾液も入り混じっていた。

「――安全の確認が終わりました。運転を再開します」

そして、電車は再発進する。

電車ってこんなに揺れる乗り物だったっけ？

朱鷺乃の膣内を通じて、小刻みに揺れる度、快感の衝撃が全身を駆け巡る。

「んっ、ひあ……あっ、んっ、んあっ……!」

そして、電車の揺れに合わせて、朱鷺乃の口からも悩ましい吐息が漏れる。漏れる喘ぎを止めようと口を塞ごうとしたが、

「ちゅ、ちゅ、んぷ、んちゅ、ん……幸太郎くんの味、おいひい……ちゅ、ちゅるっ」

彼女の口は俺の指を口に含んでしまう。

俺のペニスは、彼女の膣内にずっぷりと埋まっているというのに、まるでフェラされてるみたいいな快感。

こほん！と、横にいる若いサラリーマンが咳払いをした。そりゃー、これだけしてりゃ  
 氣づくよね！ 氣つかないわけがないよね！ だけど、ここまで昂ってて、止められるかよ！  
 ぐちゃぐちゃといやらしい水音は電車の走行音にかき消されつつも、当事者である俺と  
 朱鷺乃の耳には届いていた。

タタンタタンと、小刻みな電車のリズムよりも速く、俺は腰を大胆にグラインドさせる。  
 『カーブのため、揺れます。手すり・吊り革などにお掴まりください』

このカーブで、朱鷺乃側へと傾くのはわかっている。

電車が曲がり、後ろから押されると、朱鷺乃の悦んでいる子宮を押し上げるほどにペニ  
 スは深く突き刺さる。

「んひい……ッ!？」

朱鷺乃の押し殺した悲鳴があがるが、あー、足を踏まれたんだねー、とでも思ってくだ  
 さい、周りの人！

カチカチと、窓ガラスと朱鷺乃のメガネが当たり、硬質な音を鳴らす。

朱鷺乃の子宮口と膣口を何度も何度も往復する。

『次はー、荻並ー、荻並ー。お出口は左側です』

開くのは、俺たちのいる方とは逆側の扉。

ゴールまでのラストスパート。最後の加速。



ぶちばら文庫 Creative

# ぜったいメガネはずさない!

2012年 5月18日 初版第1刷 発行

■著 者 玉城琴也

■イラスト 八尋ぼち

発行人：久保田裕  
発行元：株式会社パラダイム  
〒166-0011  
東京都杉並区梅里2-40-19  
ワールドビル202  
TEL 03-5306-6921

印刷所：中央精版印刷株式会社

本書の内容を無断で複製・複写・放送・データ配信などを行うことは、  
かたくお断りいたします。

落丁・乱丁はお取り替えいたします。

定価はカバーに表示してあります。

©KOTOYA TAMAKI ©POCHI YAHIRO

Printed in Japan 2012

PPC009

# それでも 水着は 脱がさない!

Soredemo  
Mizugi  
Ha  
Nugasanai!

好評発売中

偶然当たった沖縄旅行。憧れの水無瀬まどかときあい始め、幸せ絶頂だった康祐は、迷わず決意を固めた。この旅行中に、まどかが初エッチをするのだ。だが、行きの機内で出会った陽子に初体験を手伝ってもらったことで、ふたりの旅行は誘惑の連続になってしまった。意外と巨乳だったまどかの水着姿に感動しつつ、大人な陽子にも惹かれる康祐は、水着エッチの毎日に!

ぶちばら文庫23  
玉城琴也 著  
珈琲貴族 画  
定価 670円(税込)

真夏の天使たちよ...  
脱いじゃダメ!  
絶対!



ぶちばら文庫  
creative